

令和元年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	神奈川県		市町村類型	政令指定都市	指定団体等の指定状況		区分		令和元年度(千円)	平成30年度(千円)	区分		令和元年度(千円・%)	平成30年度(千円・%)	
					財政健全化等	×	歳入総額	306,646,910	297,261,601	実質収支比率	5.3	4.8			
市町村名	相模原市		地方交付税種地	1-7	財源超過	×	歳出総額	296,379,255	288,040,103	經常収支比率	99.8	98.1	(109.1)	(109.2)	
					財源超過	×	歳入歳出差引	10,267,655	9,221,498	(1)	標準財政規模	172,010,103			170,358,582
					首都		翌年度に繰越すべき財源	1,164,579	1,057,719	財政力指数	0.89	0.90			
					近畿	×	実質収支	9,103,076	8,163,779	公債費負担比率	13.5	12.9			
人口	平成27年国調(人)	720,779	産業構造 (5)		中部	×	単年度収支	939,297	324,613	健全化判断比率					
	平成22年国調(人)	717,515			過疎	×	積立金	4,149	4,155	実質赤字比率	-	-			
	増減率 (%)	0.5			山振		繰上償還金	0	0	連結実質赤字比率	-	-			
住民基本台帳人口 (7)	令02.01.01(人)	718,300	第1次	平成27年国調	低開発	×	積立金取崩し額	4,750,000	3,000,000	実質公債費比率	2.7	2.7	資金不足比率 (4)	31.3	
	うち日本人(人)	702,489		1,995	1,892	指数表選定		実質単年度収支	-3,806,554	-2,671,232	将来負担比率	31.3			33.3
	平31.01.01(人)	718,367	第2次	0.7	0.6	基準財政収入額	113,116,842	112,198,305	資金不足比率 (4)						
	うち日本人(人)	703,572		74,224	79,375	基準財政需要額	128,910,787	125,362,291							
	増減率 (%)	-0.0	24.4	25.4	標準税収入額等	141,207,096	139,876,362	經常経費充当一般財源等				175,209,362			170,698,052
	うち日本人(%)	-0.2	227,592	230,798	歳入一般財源等	199,447,650	194,224,898								
面積 (km ²)	328.91		第3次	74.9	74.0	地方債現在高	272,240,093	269,916,692				うちの資金	77,268,067	85,090,949	
人口密度 (人/km ²)	2,191			ラスバイレス指数	99.3	債務負担行為額(支出予定額)	59,420,451	58,550,734				収益事業収入	1,182,242	1,050,287	
世帯数 (世帯)	311,188		職員数の状況			土地開発基金現在高	2,000,000	2,000,000	財政調整基金	6,796,042	7,341,893	関係する一部事務組合等一覧 項番 組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番 団体名 (3)		
			区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等 (6)	区分	職員数 (人)	給料月額 (百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	積立金現在高			減債基金	378,062
特別職等	市区町村長	1	11,420	一般職員	4,589	14,019,395	3,055	財務調整基金	6,796,042	7,341,893	減債基金	378,062	333,824	関係する一部事務組合等一覧 項番 組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番 団体名 (3)
	副市区町村長	3	9,350	うち消防職員	746	2,338,710	3,135	土地開発基金現在高	2,000,000	2,000,000	その他特定目的基金	7,269,302	7,393,403		
	教育長	1	8,040	うち技能労務職員	335	1,043,525	3,115	積立金現在高	7,269,302	7,393,403					
	議会議長	1	7,790	教育公務員	2,952	10,038,889	3,401								
	議会副議長	1	7,130	臨時職員	2	-	-								
	議会議員	44	6,700	合計	7,543	24,062,596	3,190								
				ラスバイレス指数	99.3										
一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名 (3)				
(1)	一般会計	(6)	国民健康保険事業特別会計(事業勘定)	(11)	下水道事業会計	(12)	簡易水道事業特別会計			(13)	相模原市土地開発公社				
(2)	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	(7)	国民健康保険事業特別会計(直営診療勘定)							(14)	相模原市まち・みどり公社				
(3)	公債管理特別会計	(8)	自動車駐車場事業特別会計							(15)	相模原市社会福祉協議会				
(4)	公共用地先行取得事業特別会計	(9)	介護保険事業特別会計							(16)	相模原市民文化財団				
(5)	麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計	(10)	後期高齢者医療事業特別会計							(17)	相模原市スポーツ協会				
										(18)	相模原市勤労者福祉サービスセンター				
										(19)	相模原市産業振興財団				
										(20)	相模原市シルバー人材センター				
										(21)	相模原市防災協会				
										(22)	さがみはら産業創造センター				

(注釈) 1: 經常収支比率の()内の数値は、「減収補償債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
3: 地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に 印を付与している。
4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位 千円・%)				地方税の状況(単位 千円・%)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比
地方税	131,098,296	42.8	121,871,447	75.9	普通税	118,700,506	90.5
地方譲与税	1,701,964	0.6	1,701,964	1.1	法定普通税	118,700,506	90.5
利子割交付金	66,085	0.0	66,085	0.0	市町村民税	67,457,808	51.5
配当割交付金	609,602	0.2	609,602	0.4	個人均等割	1,293,907	1.0
株式等譲渡所得割交付金	366,837	0.1	366,837	0.2	所得割	59,656,644	45.5
分離課税所得割交付金	140,957	0.0	140,957	0.1	法人均等割	1,800,676	1.4
地方消費税交付金	11,789,344	3.8	11,789,344	7.3	法人税割	4,706,581	3.6
ゴルフ場利用税交付金	155,426	0.1	155,426	0.1	固定資産税	45,856,077	35.0
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	44,840,494	34.2
自動車取得税交付金	539,684	0.2	539,684	0.3	軽自動車税	1,027,679	0.8
軽油引取税交付金	3,228,223	1.1	3,228,223	2.0	市町村たばこ税	4,358,942	3.3
自動車税環境性能割交付金	209,335	0.1	209,335	0.1	鉱産税	-	-
地方特例交付金等	1,917,959	0.6	1,917,959	1.2	特別土地保有税	-	-
個人住民税減収補填特例交付金	967,811	0.3	967,811	0.6	法定外普通税	-	-
自動車税減収補填特例交付金	108,788	0.0	108,788	0.1	目的税	12,397,790	9.5
軽自動車税減収補填特例交付金	13,294	0.0	13,294	0.0	法定目的税	12,397,790	9.5
子ども・子育て支援臨時交付金	828,066	0.3	828,066	0.5	入湯税	-	-
地方交付税	17,299,939	5.6	15,680,412	9.8	事業所税	3,170,941	2.4
普通交付税	15,680,412	5.1	15,680,412	9.8	都市計画税	9,226,849	7.0
特別交付税	1,619,288	0.5	-	-	水利地益税等	-	-
震災復興特別交付税	239	0.0	-	-	法定外目的税	-	-
(一般財源計)	169,123,651	55.2	158,277,275	98.5	旧法による税	-	-
交通安全対策特別交付金	202,085	0.1	202,085	0.1	合計	131,098,296	100.0
分担金・負担金	1,446,611	0.5	-	-			
使用料	3,401,972	1.1	754,693	0.5			
手数料	1,905,844	0.6	-	-			
国庫支出金	59,673,105	19.5	-	-			
国有提供交付金(特別区財調交付金)	1,307,954	0.4	1,307,954	0.8			
都道府県支出金	15,957,969	5.2	-	-			
財産収入	464,861	0.2	109,624	0.1			
寄附金	183,982	0.1	-	-			
繰入金	5,872,554	1.9	-	-			
繰越金	5,021,498	1.6	-	-			
諸収入	14,219,524	4.6	154	0.0			
地方債	27,865,300	9.1	-	-			
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-			
うち臨時財政対策債	14,990,400	4.9	-	-			
歳入合計	306,646,910	100.0	160,651,785	100.0			

区分	令和元年度	平成30年度
徴収率 現年計	99.2	97.8
合計	99.2	97.8
市町村民税	98.8	97.0
純固定資産税	99.5	98.7

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	25,444,565	実質収支	2,634,569
下水道	4,610,000	再差引収支	709,110
駐車場整備	789,682	加入世帯数(世帯)	101,519
簡易水道	66,900	被保険者数(人)	153,346
上水道	-	被保険者	101
国民健康保険	6,131,301	1人当り	101
その他	13,846,682	保険税(料)収入額	101
		国庫支出金	-
		保険給付費	306

歳出の状況(単位 千円・%)				
目的別歳出の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	933,959	0.3	-	933,760
総務費	21,913,743	7.4	330,857	19,477,283
民生費	121,127,355	40.9	983,441	58,956,024
衛生費	25,080,469	8.5	3,307,634	17,991,635
労働費	680,603	0.2	-	239,994
農林水産業費	767,902	0.3	-	620,006
商工費	11,673,251	3.9	-	422,579
土木費	25,200,126	8.5	10,824,772	15,077,712
消防費	7,893,851	2.7	-	7,314,713
教育費	51,888,770	17.5	5,366,661	39,270,824
災害復旧費	1,806,766	0.6	-	280,806
公債費	27,412,360	9.2	-	27,043,229
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	296,379,255	100.0	21,985,736	189,183,325

性質別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	184,462,855	62.2	119,342,247	117,535,112	66.9
人件費	69,487,142	23.4	60,407,002	60,328,014	34.3
うち職員給	50,897,280	17.2	42,341,720	-	-
扶助費	87,609,919	29.6	31,938,582	31,807,864	18.1
公債費	27,365,794	9.2	26,996,663	25,399,234	14.5
元利償還金	27,365,794	9.2	26,996,663	25,399,234	14.5
うち元金	25,541,899	8.6	25,216,664	23,621,469	13.4
うち利子	1,823,895	0.6	1,779,999	1,777,765	1.0
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	88,123,898	29.7	64,935,725	57,674,250	32.8
物件費	38,317,876	12.9	30,644,623	29,630,721	16.9
維持補修費	4,225,170	1.4	3,572,834	3,572,461	2.0
補助費等	13,869,034	4.7	12,362,081	10,451,819	6.0
うち一部事務組合負担金	39,230	0.0	39,230	39,230	0.0
繰出金	20,834,565	7.0	17,467,467	13,930,289	7.9
積立金	988,069	0.3	799,760	-	-
投資・出資金・貸付金	9,889,184	3.3	88,960	88,960	0.1
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	23,792,502	8.0	4,905,353	-	-
うち人件費	728,362	0.2	723,550	-	-
普通建設事業費	21,985,736	7.4	4,624,547	-	-
うち補助	11,298,134	3.8	825,577	-	-
うち単独	9,684,194	3.3	3,076,662	-	-
災害復旧事業費	1,806,766	0.6	280,806	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	296,379,255	100.0	189,183,325	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

令和元年度 神奈川県相模原市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	305,311	295,637	10,251	8,825		281,770	
2 母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	437	141	296	-		1,107	
3 公債管理特別会計	43,226	43,226	0	-		0	
4 公共用地先行取得事業特別会計	1,961	1,961	0	-		5,386	
5 原簿台・新編野第一整備地区土地区画整理事業特別会計	1,048	751	297	295		1,987	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							実質赤字額
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和元年度

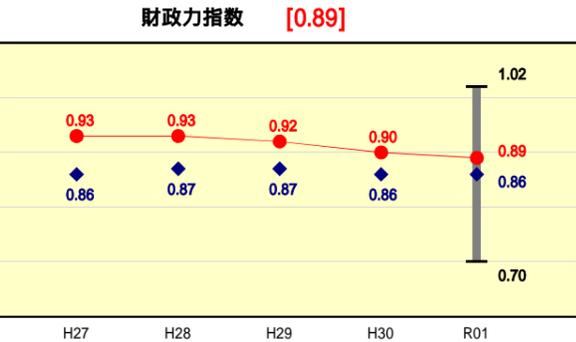
神奈川県相模原市

人口	718,300人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	702,489人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	328.91km ²	実質公債費比率	2.7%
歳入総額	306,646,910千円	将来負担比率	31.3%
歳出総額	296,379,255千円	市町村類型	H27 政令市 H28 政令市 H29 政令市
実質収支	9,103,076千円	(年度毎)	H30 政令市 R01 政令市
標準財政規模	172,010,103千円		
地方債現在高	272,240,093千円		



市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。人件費・物件費等の状況、決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

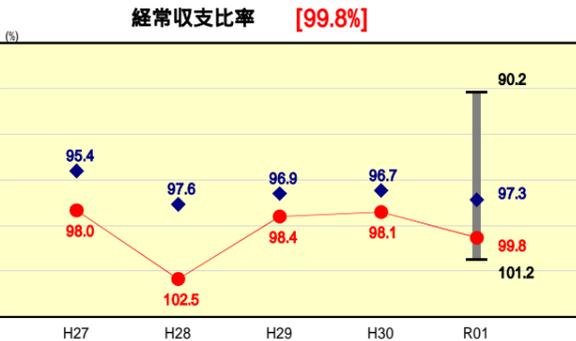
財政力



類似団体内順位 8/20 全国平均 0.51 神奈川県平均 0.92

財政力指数の分析欄
令和元年度においては、市税の増収等により標準財政収入額が増加したものの、社会福祉費等の増加による標準財政需要額の増加額が標準財政収入額の増加額を上回ったため、単年度の財政力指数は前年度に比べ0.01ポイント低下の0.88となり、3年平均では前年度に比べ0.01ポイント低下の0.89となっている。直近の5年間の推移を見ると、類似団体平均を上回っているものの、低下傾向が続いている状況にあることから、持続可能な行財政構造の構築に向けた市税収入の確保策の検討や債権回収の強化等により、財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性



類似団体内順位 17/20 全国平均 93.6 神奈川県平均 99.4

経常収支比率の分析欄
経常経費充当一般財源は、扶助費、物件費等が増加したことにより、前年度と比べると2.6%増となっている。扶助費は、障害児者介護給付費等や制度改正による児童扶養手当の増加により、前年度と比べると6.4%増、物件費は、最低賃金の上昇による指定管理経費等の増加により、前年度と比べると4.7%増となっている。経常一般財源等は、市税のほか、子ども・子育て支援臨時交付金の創設による地方特例交付金などの増加により、前年度と比べると0.9%増となっている。これらにより、経常収支比率は、前年度と比べると1.7ポイント上昇の99.8%となっている。

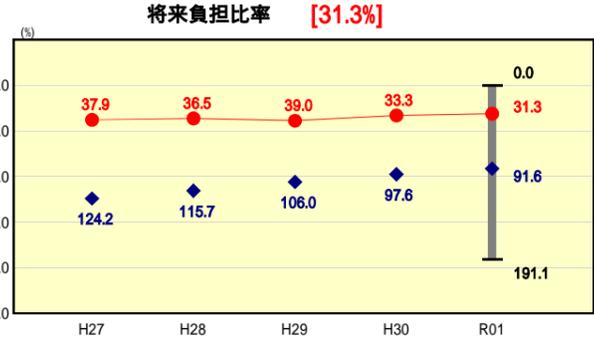
人件費・物件費等の状況



類似団体内順位 6/20 全国平均 135,880 神奈川県平均 132,911

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口一人当たりの金額は、前年度と同様、類似団体平均を下回っている。人件費については、令和元年東日本台風、統一地方選挙等の対応による時間外勤務手当の増加により、前年度と比べると0.7%増、物件費については、プレミアム付商品券事業の実施等により、前年度と比べると6.6%増、維持補修費については、清掃施設や道路橋りょうに係る経費等の増加により、前年度と比べると8.5%増となった。人件費と維持補修費については、類似団体平均を下回っているが、物件費については類似団体平均を上回り、団体内順位も19位となっている。こうしたことから、行財政構造改革の取組により、引き続き、物件費をはじめ、各経費の削減に努める。

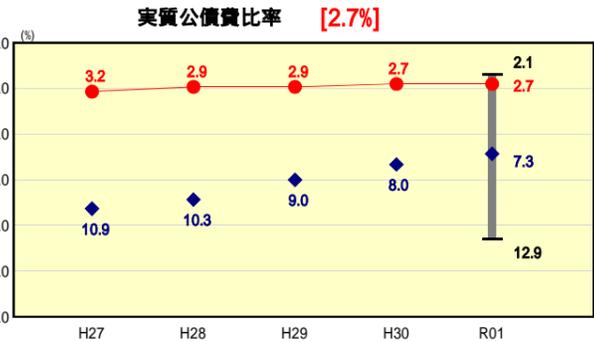
将来負担の状況



類似団体内順位 5/20 全国平均 27.4 神奈川県平均 95.7

将来負担比率の分析欄
将来負担比率については、分母である標準財政規模が市税の増収等により増加し、また分子について見ると、将来負担額は地方債残高の増により増加したが、充当可能財源についても減債基金残高や地方債残高のうち地方交付税措置のある事業債に係る残高の増により増加し、充当可能財源が将来負担額の増加を上回って増加したことから、結果として分子全体が減少し、前年度と比較すると2ポイント低下の31.3%となった。類似団体平均を大きく下回っている主な要因としては、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用してきたことがあげられるが、引き続き、将来にわたり持続可能な財政運営に努めていく。

公債費負担の状況



類似団体内順位 2/20 全国平均 5.8 神奈川県平均 7.0

実質公債費比率の分析欄
実質公債費比率については、R1年度単年度で見た場合、分母である標準財政規模が市税の増収等により増加したものの、分子である一般会計等が負担する地方債の元利償還金等の増加により、分子が分母の増加を上回って増加したため、前年度(H30年度単年度)と比較すると0.4ポイント上昇の2.9%となったが、3年平均では前年度から変動はしていない。類似団体平均を大きく下回っている主な要因としては、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用してきたことがあげられるが、引き続き、将来にわたり持続可能な財政運営に努めていく。

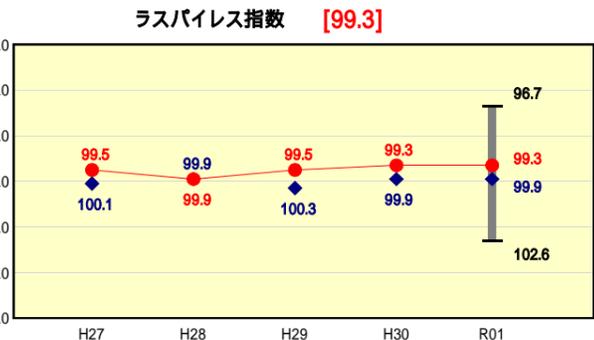
定員管理の状況



類似団体内順位 6/20 全国平均 8.03 神奈川県平均 8.93

人口1,000人当たり職員数の分析欄
平成28年度に策定した職員定数管理計画(計画期間：平成29年度～令和元年度)においては、29年度当初の職員定数を3年間維持することとしており、職員数も変動していないことから、前年度とほぼ同数となっている。平成27年度以降、類似団体平均を下回っているが、引き続き、事務執行体制及び事務事業の見直しや民間活力の導入を推進するとともに、必要度・重要度の高い事務事業に対しては重点的に職員を配分するなど、適切な定員管理に努める。

給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 3/20 全国市平均 98.9 全国町村平均 96.4

ラスパイレス指数の分析欄
平成27年度に給与制度の総合の見直しを実施し、給料表の引下げ改定を行ったことにより、27年度ラスパイレス指数(28年4月1日現在)は100を下回っている。その後は、100を下回る水準で推移している。令和元年度の数値(令和2年4月1日現在)は、前年度と同一の数値となっている。今後も引き続き、適正な給与水準の維持に努める。

(4) -1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

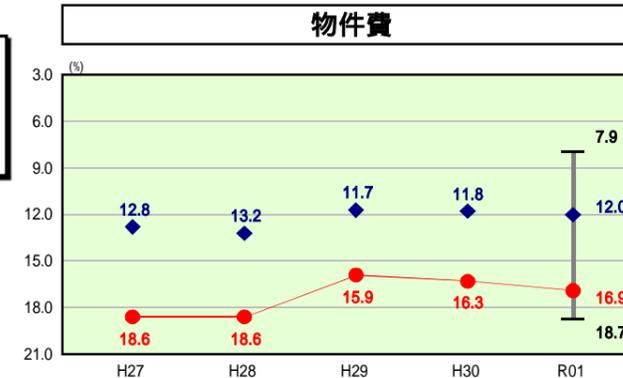
神奈川県相模原市

経常収支比率の分析

人口	718,300	人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	702,489	人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	328.91	km ²	実質公債費比率	2.7	%
歳入総額	306,646,910	千円	将来負担比率	31.3	%
歳出総額	296,379,255	千円	市町村類型	H27 政令市 H28 政令市 H29 政令市	
実質収支	9,103,076	千円	(年度毎)	H30 政令市 R01 政令市	
標準財政規模	172,010,103	千円			
地方債現在高	272,240,093	千円			

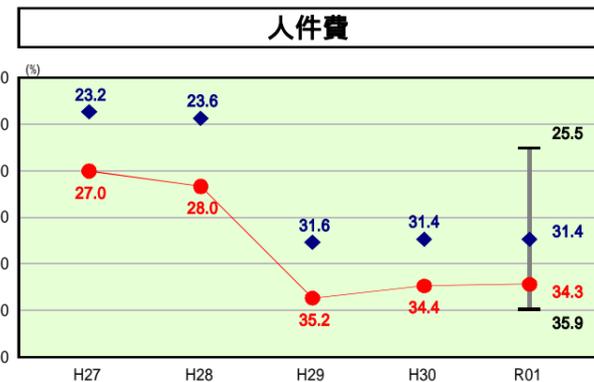


市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



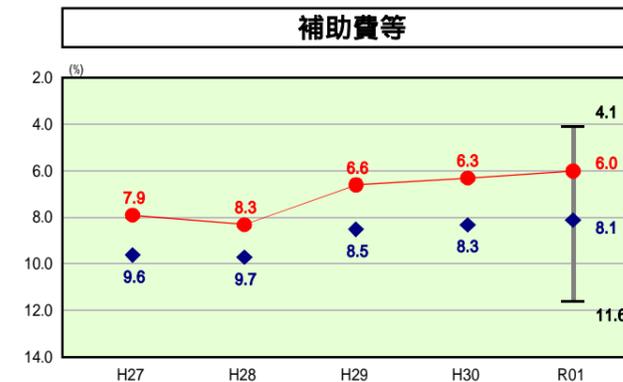
類似団体内順位 19/20 全国平均 15.0 神奈川県平均 15.2

物件費の分析欄
物件費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.6ポイント上昇の16.9%となっている。近年の推移をみると、継続して類似団体平均を上回っている。物件費が類似団体平均に比べて高いのは、本市の最低賃金が他の類似団体と比較して高い傾向にあることが主要因であり、最低賃金の上昇が指定管理経費等の賃金に反映されることにより、令和元年度についても上昇しているものである。また、物件費の内訳では、委託料の占める割合が最も高く、次いで需用費、賃金となっている。引き続き、事務事業の精査・見直しによる経費縮減に努める。



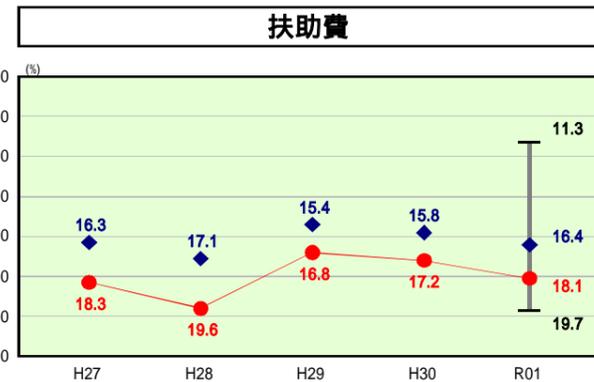
類似団体内順位 16/20 全国平均 25.6 神奈川県平均 30.7

人件費の分析欄
人件費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.1ポイント低下の34.3%となっている。人口一人当たりの人件費や1,000人当たり職員数、ラスパレス指数は、類似団体平均を下回っている。給与制度の総合の見直し(平成27年度実施)や職員定数管理計画(28年度策定)において、給与水準の適正化や適切な定員管理に取り組んでおり、今後も引き続き、適正な職員規模や給与水準の維持に努める。



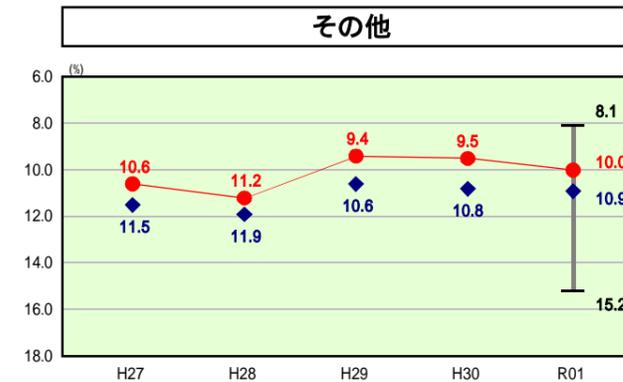
類似団体内順位 5/20 全国平均 10.3 神奈川県平均 9.7

補助費等の分析欄
補助費等に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.3ポイント低下の6.0%となっている。近年の推移をみても、平成27年度以降、継続して類似団体平均を下回っている。これは、補助費等のうち、幼児教育・保育の無償化の実施に伴い幼稚園就学奨励補助金が減少し教育費における補助費等が大きく減少したことが、主要因である。引き続き、行財政構造改革の取組を進め、事務事業の精査・見直しによる経費縮減に努める。



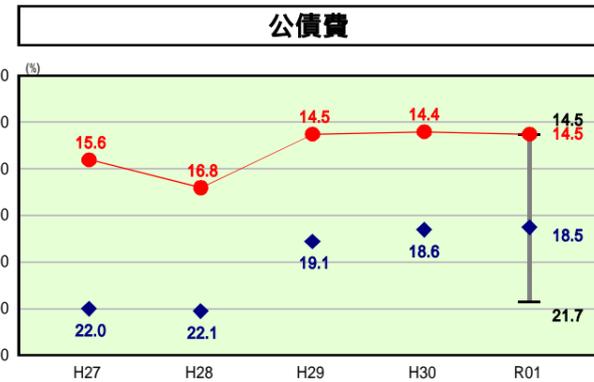
類似団体内順位 17/20 全国平均 13.1 神奈川県平均 17.4

扶助費の分析欄
扶助費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.9ポイント上昇の18.1%となっている。この要因としては、障害児者介護給付費等や制度改正による児童扶養手当の増加などが挙げられる。本市の扶助費充当が類似団体平均を上回っているのは、人口一人当たりの市単独事業の扶助費が高く、中でも特に児童福祉費と社会福祉費が、類似団体内で比べると高い水準にあることが主要因である。令和元年度については、市単独事業の扶助費のうち、幼児教育・保育の無償化の実施に伴い、施設型給付費(教育総務費)が前年度と比べると62.6%増と大きく伸びている。



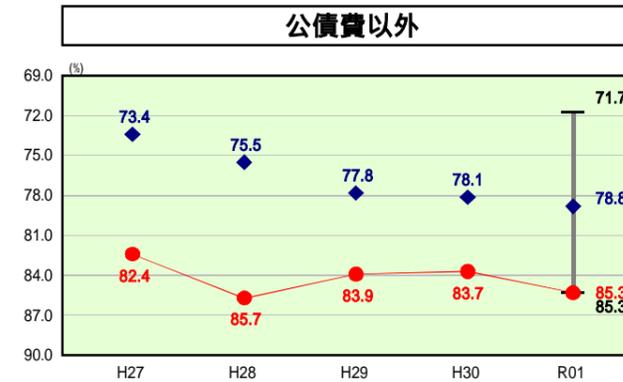
類似団体内順位 5/20 全国平均 13.1 神奈川県平均 10.6

その他の分析欄
その他に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.5ポイント上昇の10.0%となっている。これは、国民健康保険事業特別会計において、財政健全化を進めたことにより繰出金が減少したものの、清掃施設や道路橋りょうに係る維持補修費が増加したことが主要因である。引き続き、特別会計の経営健全化や公共施設の適正な管理に努める。



類似団体内順位 1/20 全国平均 16.5 神奈川県平均 15.8

公債費の分析欄
公債費に係る経常収支比率については、前年度と比べると0.1ポイント上昇の14.5%となっており、類似団体内において最も低い数値となっている。近年の推移をみても、平成27年度以降、継続して類似団体平均を下回っている。これは、第2次さがみはら都市経営指針・実行計画において、市債の発行抑制目標等に留意し、適正な市債発行に努めてきたこと等が主要因である。引き続き、市債の発行に当たっては、元利償還金に対する地方交付税措置のある有利な起債を活用するなど、適正な対応に努める。



類似団体内順位 20/20 全国平均 77.1 神奈川県平均 83.6

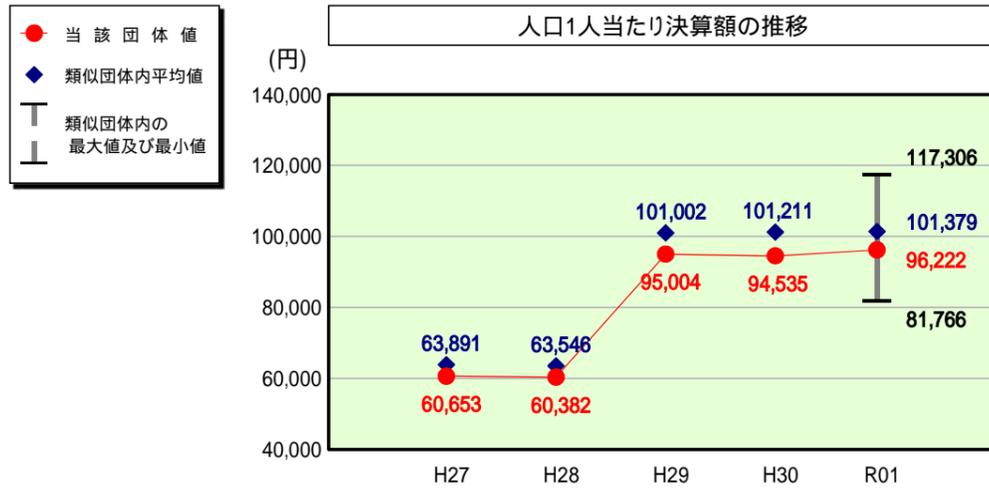
公債費以外の分析欄
公債費以外に係る経常収支比率について、主な内訳をみると、人件費充当分が34.3%、扶助費充当分が18.1%、物件費充当分が16.9%となっており、前年度と比べると1.6ポイント上昇の85.3%となっている。これらの主な内訳が類似団体平均を上回っているため、全体としても高い数値となり、公債費以外についても類似団体平均を上回っている。こうしたことから、引き続き、行財政構造改革の取組を進め、経費縮減に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

神奈川県相模原市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

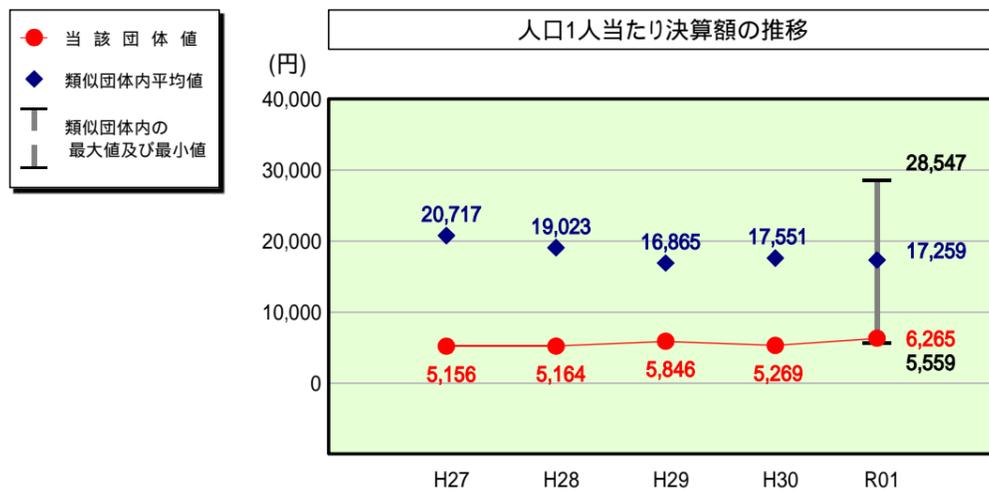
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	69,487,142	96,738	103,263	6.3
賃金(物件費)	3,027,179	4,214	1,458	189.0
一部事務組合負担金(補助費等)	156	0	119	100.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	148,846	207	1,204	82.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	5	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	875,466	1,219	1,915	36.3
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	728,362	1,014	1,236	18.0
退職金	5,150,590	7,171	7,821	8.3
合計	69,116,561	96,222	101,379	5.1

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	10.50	10.89	0.39
ラスパイレス指数	99.3	99.9	0.6

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

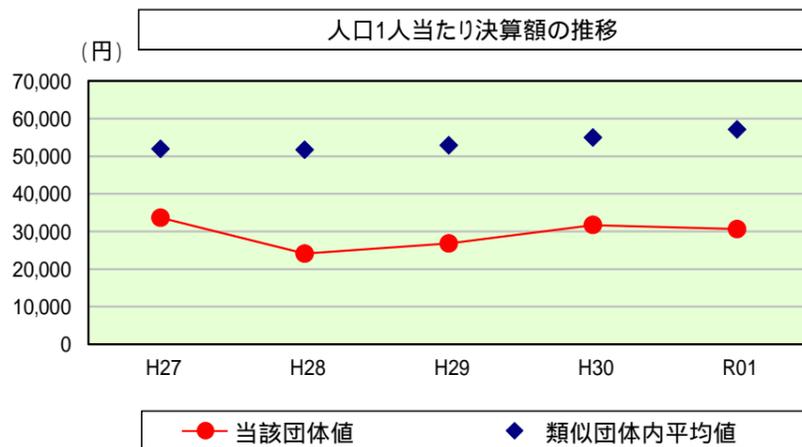


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	22,602,977	31,467	32,340	2.7
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	3,070	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	3,060,000	4,260	20,684	79.4
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	4,205,808	5,855	10,383	43.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	181	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	971,651	1,353	1,161	16.5
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	0	-
特定財源の額	8,505,982	11,842	17,790	33.4
地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	17,834,485	24,829	32,769	24.2
合計	4,499,969	6,265	17,259	63.7

令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H27	24,087,552	33,612	21.0	51,898	3.1	17.9
うち単独分	12,363,793	17,252	24.6	25,986	2.9	27.5
H28	17,291,812	24,118	28.2	51,684	0.4	27.8
うち単独分	9,372,112	13,072	24.2	26,671	2.6	26.8
H29	19,268,274	26,829	11.2	52,897	2.3	8.9
うち単独分	10,690,321	14,885	13.9	27,013	1.3	12.6
H30	22,769,747	31,697	18.1	54,945	3.9	14.2
うち単独分	12,753,851	17,754	19.3	29,293	8.4	10.9
R01	21,985,736	30,608	3.4	57,132	4.0	7.4
うち単独分	9,684,194	13,482	24.1	30,126	2.8	26.9
過去5年間平均	21,080,624	29,373	4.7	53,711	1.3	6.0
うち単独分	10,972,854	15,289	7.9	27,818	3.6	11.5

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和元年度

神奈川県相模原市

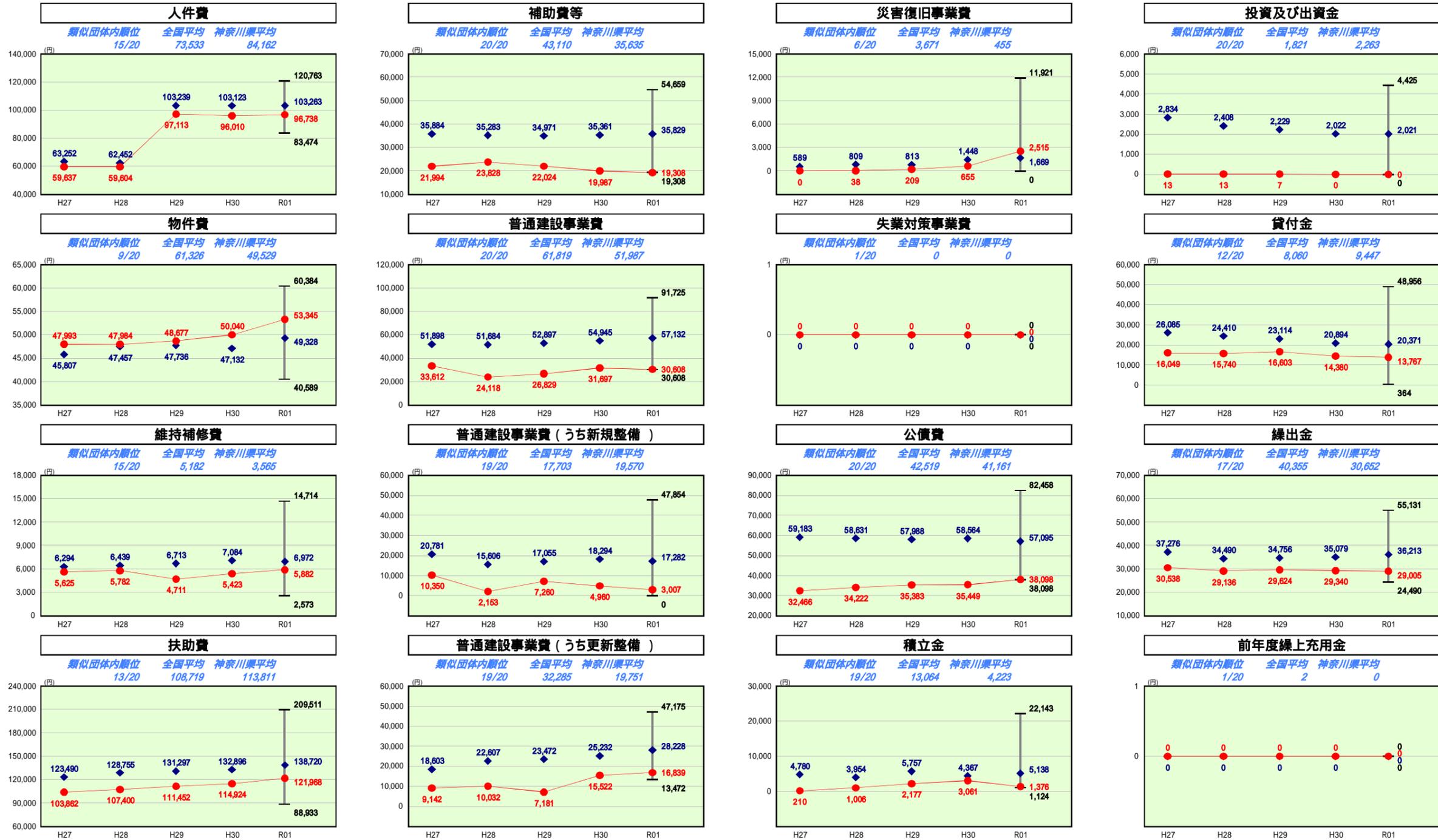
人口	718,300人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	702,489人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	328.91km ²	実質公債費比率	2.7%
歳入総額	306,646,910千円	将来負担比率	31.3%
歳出総額	296,379,255千円	市町村類型	H27 政令市 H28 政令市 H29 政令市
実質収支	9,103,076千円	(年度毎)	H30 政令市 R01 政令市
標準財政規模	172,010,103千円		
地方債現在高	272,240,093千円		



市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性別繰出の分析欄

歳出決算総額は、住民一人当たり412,612円となっている。人件費は住民一人当たり96,738円で、前年度と比べると0.7%増となっている。平成29年度に県費負担教職員の給与負担等の権限移譲等により総額としては増加しているが、近年、類似団体平均を下回り、低い水準を維持している。物件費は住民一人当たり53,345円で、前年度と比べると6.6%増となっており、類似団体と比較して、一人当たりコストが高い状況が続いている。これは、物件費に占める委託料や賃金の割合が高く、最低賃金が高い傾向にあるため、最低賃金が委託事業者や非常勤職員の賃金に反映されることによるものである。普通建設事業費は住民一人当たり30,608円で、前年度と比べると3.4%減となっている。これは、土木費における土地区画整理費の減少や教育費において公民館整備事業の完了したことによる減が主な要因となっている。近年、類似団体平均を下回る低い水準で推移しているが、持続可能な都市経営を行っていくために、引き続き、老朽化する公共施設の長寿命化事業の推進や都市基盤整備等に係る経費の確保に努める。扶助費は住民一人当たり121,968円で、前年度と比べると6.1%増となっている。これは、幼児教育・保育の無償化の実施及び対象施設の増加に伴い児童福祉費・教育総務費の施設型給付費等が増加したこと等が主な要因である。扶助費などの義務的経費の増大は、柔軟な財政運営に影響を及ぼすため、引き続き、市単独事業の扶助費等の見直しなどに努める。災害復旧事業費は住民一人当たり2,515円で、前年度と比べると284.0%増となっている。これは令和元年台風第15号及び令和元年東日本台風の対応による事業費の増加が主な要因となっている。全体的に、各費目の住民一人当たりの金額は類似団体平均を下回るものが多い。こうした中で、類似団体平均を上回る物件費や近年増加傾向にある扶助費については、事務事業の見直し等の取組を進め、経費削減に努める。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和元年度

神奈川県相模原市

人口	718,300 人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	702,489 人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	328.91 km ²	実質公債費比率	2.7 %
歳入総額	306,646,910 千円	将来負担比率	31.3 %
歳出総額	296,379,255 千円	市町村類型	H27 政令市 H28 政令市 H29 政令市
実質収支	9,103,076 千円	(年度毎)	H30 政令市 R01 政令市
標準財政規模	172,010,103 千円		
地方債現在高	272,240,083 千円		



市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析欄

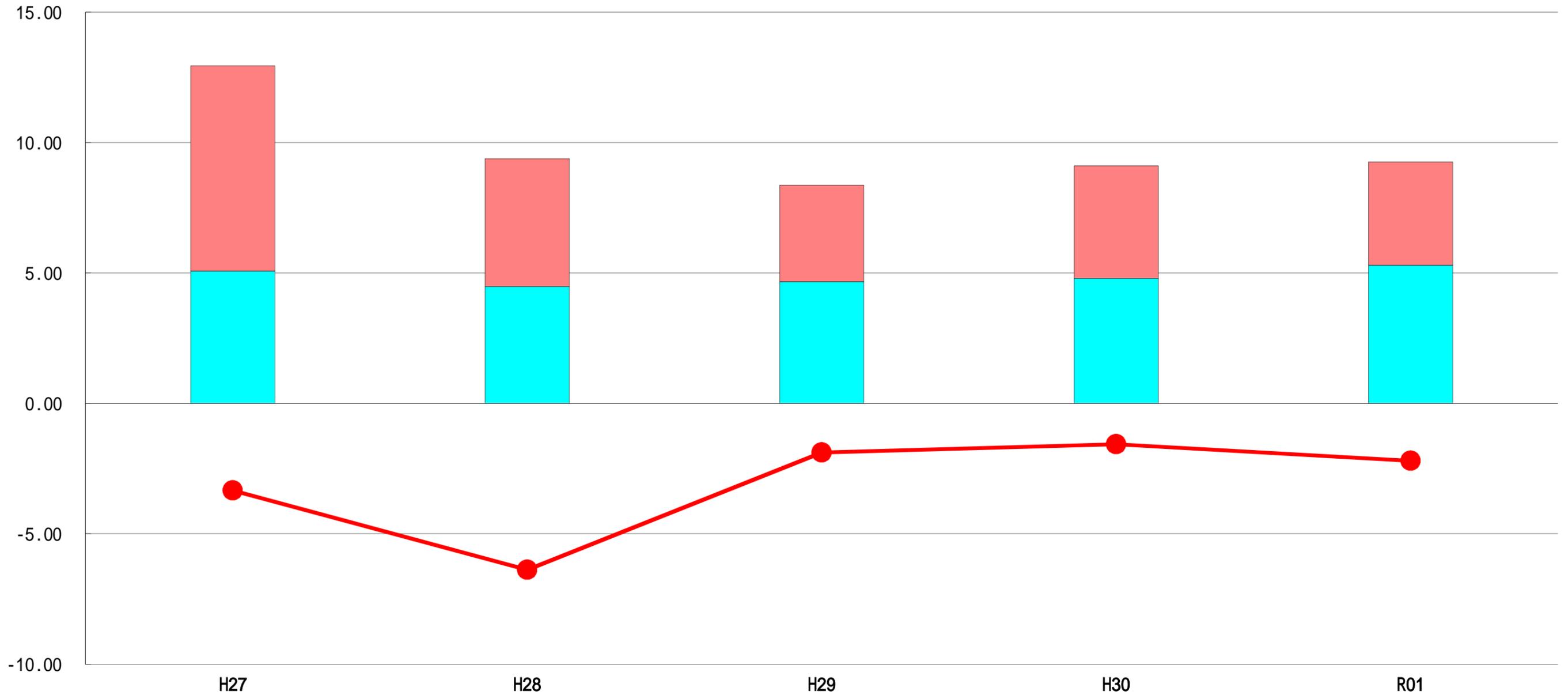
民生費は、住民一人当たり168,631円となっており、類似団体平均を下回っているが、前年度と比べると3.5%増となっている。決算額全体でも、前年度より増加しており、これは幼児教育・保育の無償化、プレミアム付商品券事業の実施等が主な要因である。衛生費は、住民一人当たり34,916円となっており、前年度と比べると9.4%増となっている。決算額全体でも、清掃施設の改良工事の増加等の影響により、平成30年度において大きく上昇に転じており、令和元年度についても前年度より増加している。土木費は住民一人当たり35,083円となっており、前年度と比べると5.2%減であり、類似団体内で最も低い水準である。決算額全体でも、令和元年度より減少に転じており、これは麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業費の減少等が主な要因である。教育費は、住民一人当たり72,238円となっており、前年度と比べると3.1%増となっているが、類似団体平均を下回り、前年度と同様に最も低い水準である。これは、類似団体では本市のみ市立高等学校を設置していないことが要因の一つと考えられる。決算額全体でも、平成29年度に県費負担教職員の給与負担等の権限移譲の影響により大きく増加しており、令和元年度についても前年度より増加している。これは、民生費と同様に、幼児教育・保育の無償化の実施等が主な要因である。災害復旧費は、住民一人当たり2,515円で、前年度と比べると284.0%増となり、過去5年間で初めて類似団体平均を上回ることとなった。決算額全体をみても大幅な増加となり、これは、令和元年度東日本台風等による災害に係る公共施設の災害復旧事業費の皆増が主な要因である。公債費は住民一人当たり38,163円で、前年度に引き続き、類似団体内で最も低い水準である。これは、第2次都市経営指針・実行計画に基づく市債の発行抑制の取組や、土木費が低水準で推移してきたことにより市債発行が抑えられてきたことなどが主な要因である。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)

令和元年度

神奈川県相模原市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H27	H28	H29	H30	R01
 財政調整基金残高		7.86	4.90	3.70	4.31	3.95
 実質収支額		5.07	4.47	4.66	4.79	5.29
 実質単年度収支		3.34	6.38	1.89	1.57	2.21

分析欄

財政調整基金残高について、平成27年度の111億円から29年度まで減少し、平成30年度は約11億円増加したが令和元年度は再び減少し68億円となった。平成27年度以降、積立額が40億円程度と一定の規模で推移しているが、扶助費の増加などの歳出増に対応するため、取崩額が積立額を上回る状況が続いていた。

こうしたことから、平成29年度までは、標準財政規模比は低下傾向が続いていたが、令和元年度においては、取崩額が積立額を上回り、残高も減少していることから、標準財政規模比についても、前年度と比べると0.36ポイント低下の3.95%となっている。

実質収支額について、形式収支が前年度と比べると11.3%増となっており、繰越財源も10.1%増となったことから、標準財政規模比については、前年度と比べると0.50ポイント上昇の5.29%となっている。

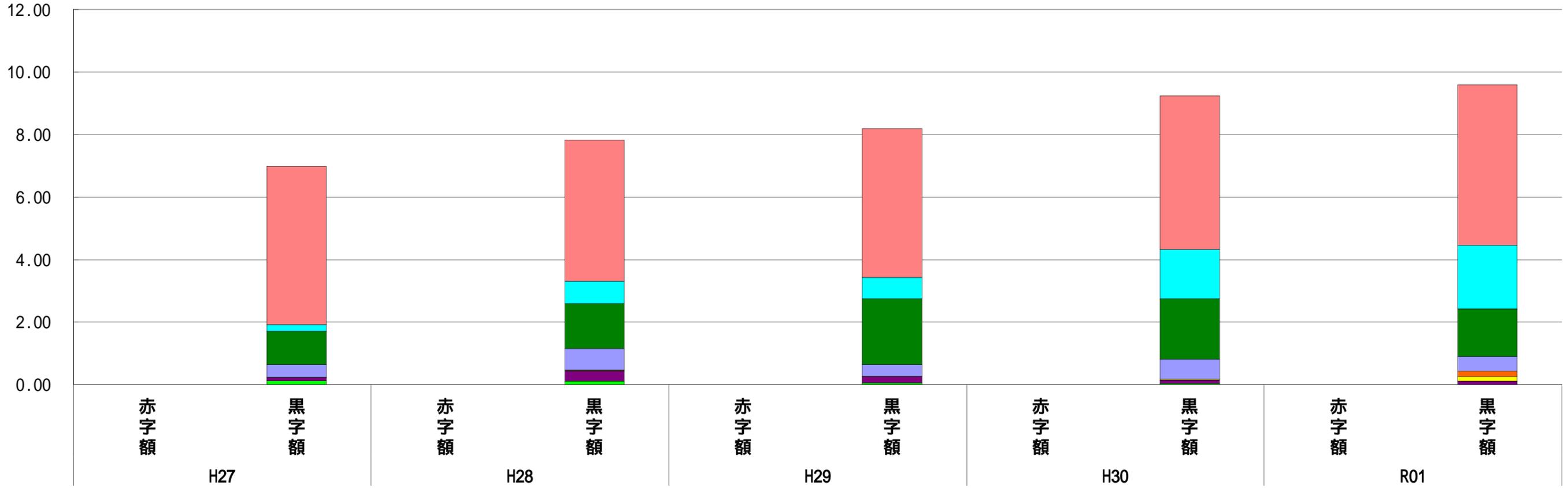
実質単年度収支について、38.1億円の赤字となったが、財政調整基金の取崩額が減少したことなどにより、標準財政規模比は、前年度と比べると0.64ポイント上昇の2.21%となっている。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析(市町村)

令和元年度

神奈川県相模原市

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

会計	年度	H27	H28	H29	H30	R01
一般会計		5.06	4.51	4.76	4.91	5.13
下水道事業会計		0.21	0.72	0.68	1.58	2.03
国民健康保険事業特別会計(事業勘定)		1.06	1.44	2.10	1.94	1.53
介護保険事業特別会計		0.41	0.68	0.38	0.63	0.47
麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計		0.00	0.01	0.00	0.00	0.17
簡易水道事業特別会計		0.02	0.03	0.01	0.03	0.14
後期高齢者医療事業特別会計		0.09	0.31	0.20	0.11	0.12
自動車駐車場事業特別会計		0.13	0.12	0.06	0.04	0.00
その他会計(赤字)		-	-	-	0.00	-
その他会計(黒字)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

対象となる全ての会計において、赤字額及び資金不足額は生じていないことから、連結実質赤字比率は算定されていない。前年度と比べると標準財政規模に対する黒字額の割合については、0.35ポイント上昇している。これは、麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業特別会計において実質収支額が増加したこと等によるものである。

今後についても、一般会計から他会計への繰出金や受益者負担の適正化を図ることなどにより、持続可能な財政運営に努める。

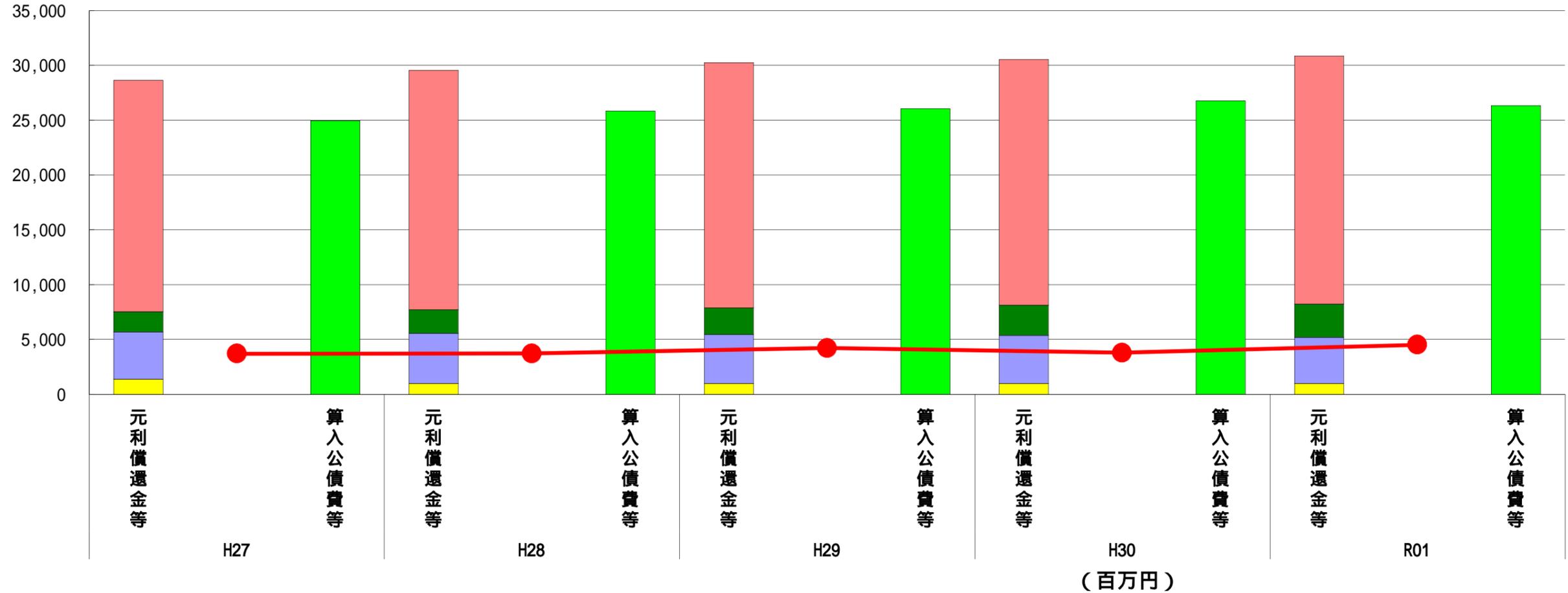
令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率(分子)の構造(市町村)

令和元年度

神奈川県相模原市

(百万円)



分子の構造		年度	H27	H28	H29	H30	R01
元利償還金等(A)	元利償還金		21,100	21,827	22,371	22,381	22,603
	減債基金積立不足算定額 2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		1,833	2,160	2,460	2,760	3,060
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		4,329	4,571	4,451	4,405	4,206
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		1,366	979	977	974	972
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等		24,935	25,834	26,060	26,735	26,341
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,693	3,703	4,199	3,785	4,500

分析欄

元利償還金等については、臨時財政対策債などの発行に伴う元利償還金の増加や、全国型市場公募債の発行による満期一括償還地方債に係る年度割相当額の増加等により、前年度と比べると321百万円増加した。

また、算入公債費等については特定財源の減少等により、前年度と比べると394百万円減少した。

このことから、前年度と比べると実質公債費比率の分子は、715百万円増加した。

1 令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

		年度	H26末	H27末	H28末	H29末	H30末
2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		4,442	6,000	8,210	10,520	12,778
	減債基金積立相当額		2,333	3,667	5,333	7,327	9,620

分析欄

満期一括償還方式の地方債については、毎年度発行額の1/30(住民参加型は1/10)を積み立てている。なお、積立不足額は生じていない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

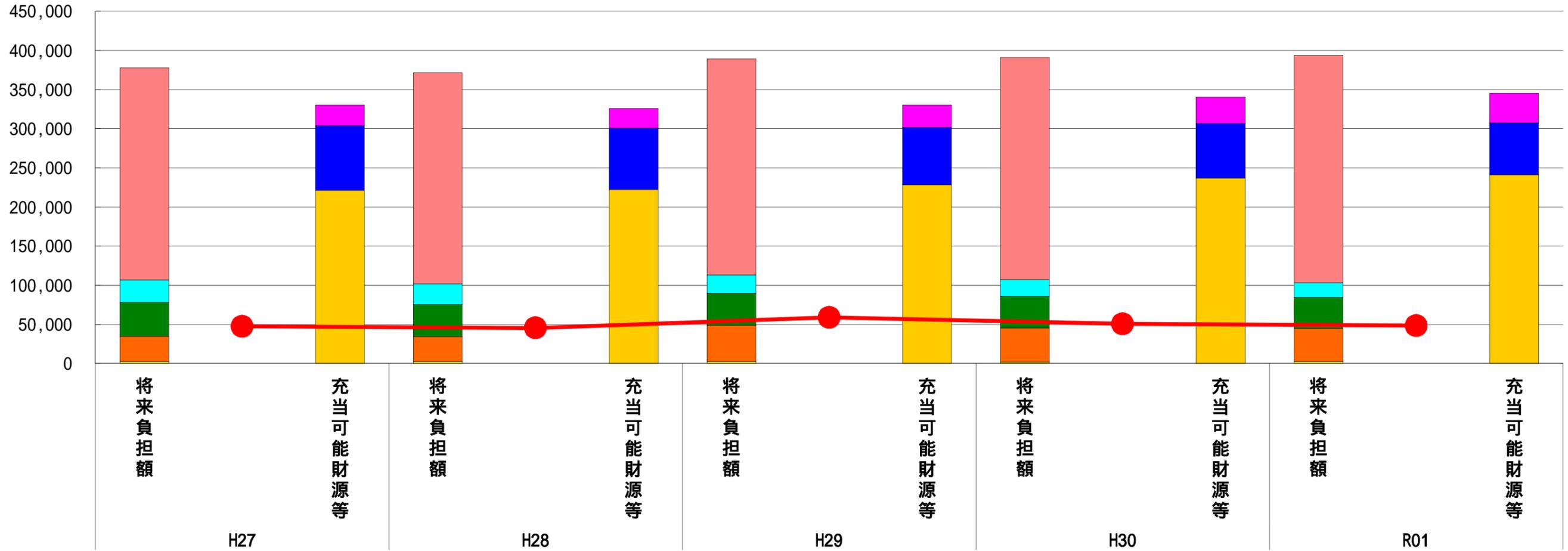
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率(分子)の構造(市町村)

令和元年度

神奈川県相模原市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H27	H28	H29	H30	R01
将来負担額(A)	一般会計等に係る地方債の現在高		270,808	269,193	275,797	283,802	290,250
	債務負担行為に基づく支出予定額		28,798	26,353	23,816	21,442	18,769
	公営企業債等繰入見込額		43,155	41,289	40,798	40,312	39,506
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		32,428	31,721	46,361	43,419	42,650
	設立法人等の負債額等負担見込額		2,603	2,612	2,462	2,133	2,345
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等(B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		26,426	25,043	28,669	33,638	37,422
	充当可能特定歳入		82,545	78,352	73,694	69,938	66,555
	基準財政需要額算入見込額		221,372	222,324	227,998	236,793	241,159
(A) - (B)	将来負担比率の分子		47,450	45,450	58,873	50,740	48,385

分析欄

将来負担額については、一般会計における地方債の現在高が増加したことにより、前年度と比べると2,412百万円増加した。

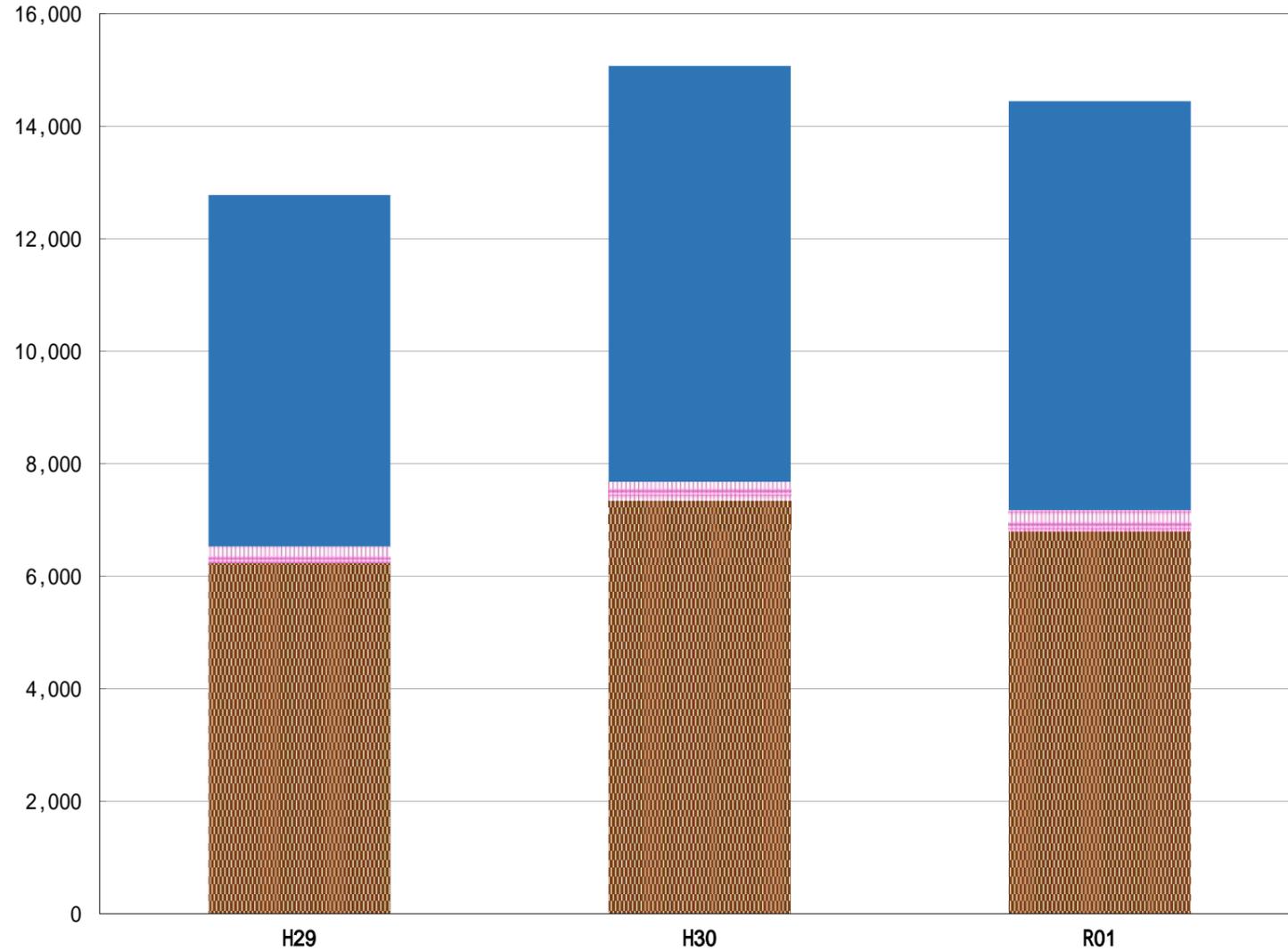
また、充当可能財源等については、基金残高が増加したことや、地方債現在高のうち地方交付税措置のある事業債に係る残高の比率が増加したことにより、前年度と比べると4,767百万円増加した。

このことから、前年度と比べると将来負担比率の分子は、2,355百万円減少した。

令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

（百万円）



（百万円）

区分	年度	H29	H30	R01
其他特定目的基金	都市交通施設整備基金	1,966	1,922	1,925
	社会福祉基金	952	837	714
	産業集積促進基金	480	762	655
	みどりのまちづくり基金	720	682	645
	相模川ダム周辺地域振興基金	504	501	500
	基金残高合計		12,772	15,069

令和元年度

神奈川県相模原市

基金全体

（増減理由）

令和元年度の財政調整基金の残高は、災害救助基金の設置に係る積立ての財源として5億円を取り崩したことなどから、前年度と比べると約5億円減少した。

その他特定目的基金においては、災害救助基金の設置による増加があった一方で、老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進するための財源として、公共施設保全等基金を取り崩したことなどから、残高は前年度と比べて約1億円減少した。

平成29年度から令和元年度にかけて基金全体で約17億円増加しているが、これは、平成30年度において、市税等の歳入見込みから、財政調整基金取崩額を減額したことや、老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進する必要があることから、その財源を確保するため、公共施設保全等基金や学校施設整備基金への積立を行い、その他特定目的基金が増加したことが主な要因である。

（今後の方針）

基金については、それぞれの設置目的に従い積立て・取崩し等を行っているが、現在、それぞれの積立ての考え方などについても整理・研究を進めている。

また、老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進する必要があることから、その財源として、公共施設保全等基金や学校施設整備基金の残高を確保していく。

財政調整基金

（増減理由）

平成30年度においては、前年度決算剰余金等約41億円の積立に対し、30億円の取崩しを行ったことから、年度末残高は前年度末と比べると約11億円増加の約73億円となった。

また、令和元年度においては、前年度決算剰余金等約42億円の積立に対し、災害救助基金の設置に係る財源5億円を含む47.5億円の取崩しを行ったことから、年度末残高は前年度末と比べると約5億円減少の約68億円となった。

（今後の方針）

令和2年度は、前年度決算剰余金等約45億円の積立に対して、取崩額は約33億円を見込んでいることから、年度末残高は前年度末に比べて増加するものと見込んでいるが、令和3年度にその大部分を取り崩す見込みである。

財政調整基金の残高は、ピーク時の約50%まで減少するなど、臨時的財政需要などに対応する余裕は極めて乏しい状況となっており、緊急的な財政出動に備える必要があることから、財政運営上適切な財政調整基金の残高を確保していく。

減債基金

（増減理由）

市債の償還に必要な財源を確保し、将来にわたる財政の健全な運営に資するため、基金運用益等の積立により、前年度と比べると0.4億円の増加となっている。

（今後の方針）

運用益等による積立により、令和2年度末残高も増加するものと見込んでいる。

なお、この残高には含まれていない満期一括償還に係る積立では、全国型市場公募債（平成22年度から発行）分については1/30、住民参加型市場公募債（平成27年度まで発行）分については1/10ずつ、発行の翌年度より積立を行っており、満期一括償還に備えた減債基金の積立不足は生じていない。

其他特定目的基金

（基金の用途）

基金残高の多い主な基金の用途は、次のとおりである。

都市交通施設整備基金：都市交通施設を整備する事業の財源とするために設置された基金

社会福祉基金：社会福祉の増進を図る事業の財源とするために設置された基金

産業集積促進基金：産業集積の促進を図る事業の財源とするために設置された基金

（増減理由）

増減額が大きかった主な基金の増減額と理由は、次のとおりである。

災害救助基金（令和元年度末残高：489百万円 対平成30年度末残高増減額：+489百万円）

災害救助法における救助実施市としての認定を受けるに当たり、新たに基金を設置したため、残高は皆増した。

公共施設保全等基金（令和元年度末残高：403百万円 対平成30年度末残高増減額：235百万円）

公共施設の長寿命化事業等を今後も着実に推進するための財源として取り崩したため、残高が減少した。

市街地整備基金（令和元年度末残高：407百万円 対平成30年度末残高増減額：135百万円）

麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業のための財源として取り崩したため、残高が減少した。

（今後の方針）

老朽化する公共施設の長寿命化事業等を着実に推進する必要があることから、その財源として、「公共施設保全等基金」や「学校施設整備基金」の残高を確保していく。